



Original, Inspiring, Microphones™

---

**EDEN LT-386**  
**MULTI-VOICING™ VACUUM TUBE**  
**CONDENSER MICROPHONE**

OPERATING MANUAL



# **WARNING!**

Lauten Audio の認定技術者のみが、本マイクロホンやその付属品の分解やメンテナンスを行ってください。  
本マイクロホンの部品を分解したり改造したりすると、保証が無効になる場合があります。

電源が入っているときは、決してマイクロホンを分解しないでください。

**電源の正しい電圧設定を行わないと、マイクロホンが損傷します!**

マイクロホンを使用する前に、電源の背面にある電圧スイッチがあなたの国の電圧に正しく設定されていることを確認してください。

100～120V の場合は、電圧セレクターを 115V に設定してください。

220 ～ 240V の場合は、電圧セレクターを 230V に設定してください。

カバーを外したままマイクロホンや電源に電源を供給しないでください。重傷を負う可能性があります。

注: マイクロホンや電源装置の内部には、ユーザーによる修理が可能な部品はありません。

マイクの接続方法については、マニュアルのクイックスタートガイドまたは接続セクションを参照してください。

## はじめに

マイクロホンが接続される機器が、あなたの国で施行されている安全規制を満たしているか、あるいは超えていること、またアースリードが使用されていることを確認してください。

Lauten Audio の認定技術者のみが本マイクロホンやその付属品の分解やメンテナンスを行ってください。本マイクロホンのいかなる部分も分解したり改造したりすると、保証が無効になる場合があります。

**電源の正しい電圧設定を行わないと、マイクロホンが損傷します!**

マイクロホンを使用する前に、電源の背面にある電圧スイッチがあなたの国の電圧に正しく設定されていることを確認してください。

100～120V の場合は、電圧セレクターを 115V に設定してください。  
220～240V の場合は、電圧セレクターを 230V に設定してください。

カバーを外したままマイクロホンや電源に電源を供給しないでください。  
重傷を負う可能性があります。

注: マイクロホンや電源装置の内部にはユーザーによる修理が可能な部品はありません。

修理を依頼される場合は、マイクロホンまたは電源装置をローテンオーディオ認定サービスセンターまでお送りください。

マイクの接続方法については、マニュアルのクイックスタートガイドまたは接続セクションを参照してください。

## クイックスタートガイド/操作手順

- ショックマウントバンドがしっかりと取り付けられているか、ひび割れや破損がないかを確認します。
- 高品質で重量のあるマイクスタンドに、マイクをマウントにしっかりと取り付けます。マイク全体をひねるのではなく、マイクスタンドの支柱やアームを回してマウントにねじ込むのが最も簡単です。スタンドがマウントにしっかりとねじ込まれたら、ショックマウントエルボーの蝶ナットを締めます。
- レコーディングインターフェース/マイクプリアンプのファンタム電源とゲインがオフになっていることを確認します。
- 電源の裏側で、お住まいの国の適切な電圧が選択されていることを確認します（例：米国と日本は115V、ヨーロッパは230V）（図1）。詳しくは "電源要件" の項をご参照ください。
- 電源のオン / オフスイッチがオフの位置にあることを確認し、電源コードをコンセントに接続します（図2）。
- 電源は、録画中に邪魔にならない安全な場所に置きます。
- チューブマイク・ケーブルの黒いオス5ピンコネクタを、電源の5ピンメスコネクタに接続します。
- 5ピンチューブマイクケーブルのメス側（銀色）を、マイクロホンの5ピンオスコネクタの下側に接続します。
- 標準的な3ピンXLRマイクケーブルのメス側を電源の3ピンオスコネクタにオス側をレコーディングインターフェース/マイクプリアンプ/ミキサーにしっかりと接続してください。
- マイクロホンのマルチボイス、ポーラパターン、ハイパスの選択を行います。
- LT386PSU の電源を入れます（電源の前面に赤いランプが点灯します）。マイクロホンを 30 分間ウォームアップしてください。
- マイクをボーカルや音声用に使用する場合は、高品質のポップフィルターを使用してください。マイクロホンのカプセルに異物が入ると、損傷する可能性があります。
- レコーディングインターフェースやプリアンプの入力ゲインを徐々に上げていき、希望のマイク入力レベルになるようにテストしてください。
- これで、Eden LT-386 マイクロホンを使用する準備が整いました。

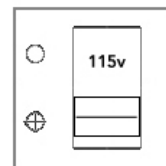


図1

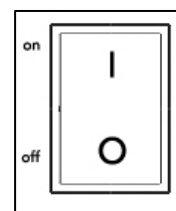


図2

## 製品と機能について

このラージ・ダイアフラム真空管コンデンサー・マイクロホンは、長年レコーディング・スタジオで活躍するサウンド・エンジニアからのフィードバックをもとに、考え抜かれた設計がなされています。

マイクロホンの特性は、ふくよかで豊かな低域と中域、そして滑らかでユニークな中高域を提供するように設計されています。プレミアム品質と信頼性の高いコンポーネントを使用して、このマイクは長年にわたってレコーディングスタジオでの使用に耐えることができます。

マイクロホンの電子回路は20dB以下の自己雑音と120dBの最大SPLレベルを示します。31.25mmのダイアフラムは片面に金の層を持つ超薄型プラスチック素材で作られています。このボディはRF干渉の防止に役立ち、トランスミッター・ステーションやワイヤレス・マイク、その他の通信機器の近くでマイクを使用することができます。

Eden LT-386は、マイクグリルのすぐ下のマイクの両側と背面に3つのスイッチを備えています。これらのスイッチにより、低域、極性パターン、音色を調整することができます(下図3、4、5参照)。

### ハイパススイッチ

マイクの左側には、"Kick-shaper"と"Vocal-shaper"と呼ばれるユニークな2段階のハイパスフィルターがあります(図3)。これらのフィルターは、レコーディング時に最も問題となる2つの低域をシェイプするために独自に調整されています。デフォルトのポジションでは、ハイパスはありません。ステージ1、つまり真ん中のポジションは"キック・シェイパー"で、これはキック・ドラム用に設計されたものです。ローエンドを段階的にカットし、余分なブーミネスを除去します。しかし、タム、ボーカル、ギターなどにも自由に試してください。スイッチをステージ2、つまり一番下のポジションに動かすと、"Vocal-shaper"となり、ボーカル・トラックをクリーンアップして、驚くほどスムーズでクラシックなボーカル・サウンドに仕上げます。もちろん、この他にも様々なソースで使用できます。

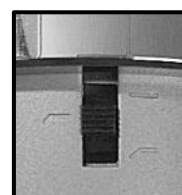


図3 High-pass filter

### ポーラーパターンスイッチ

ポーラーパターンスイッチ(図4)は、マイクロホンの右側にあります。選択可能な極性パターンは、8の字型(上)、単一指向性(中央)、無指向性(下)です。異なるポーラーパターンを選択できることで、このマイクロホンは多くのレコーディングシーンで使用することができます。マイクロホンにパターンスイッチがあることで、あなたやアーティストが素早く簡単に選択することができます。

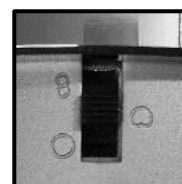


図4 Polar Pattern Switch

### マルチボイスイングスイッチ

マルチボイスイングスイッチは、マイクロホンの背面にあります(図5)。Edenは、非常に多様性に富んでいます。オプションはF(フォワード)、N(ニュートラル)、G(ジェントル)です。マルチボイスイングは、マイクロホン本体でのみ実現できるプロセスです。これはローテンオーディオ独自の技術で、3つの独立した信号経路を使用して独自の周波数整形を行います。Edenのマルチボイス機能は、Edenのベストを引き出すために特別に設計・調整されています。Gentleポジションは、ブライツまたはピーキーなソースを最大限にコントロールしたり、非常にウォームでヴィンテージな雰囲気を実現します。ハイパス・フィルターを加えれば、全く別のマイクを手に入れたかのように感じるでしょう。Neutralは、Sをうまくコントロールしながら均一なレスポンスを提供し、よりモダンなマイクに近づきますが、まだヴィンテージの雰囲気に包まれています。最後にForwardは、Lauten Audioが得意とするモダンなタッチで過去のクラシック・マイクロホンのおなじみの「空気感」を再現します。



図5 Multi-voicing switch

## 電源について

Eden LT-386 マイクロホンは、付属の LT386PSU パワーサプライからの電源を必要とします。このマイクロホンは、他の電源では正しく動作しません。LT386PSU 電源の背面にある、お住まいの国の適切な電源電圧(図 6)を選択してください。適切な電圧を選択しないと危険であり、マイクロホンを損傷します。

**このマイクロホンを付属の電源以外の電源に接続しないでください。  
電源の背面にある適切な電圧選択を確認してください。**

### Voltage Selector

マイクロホンや電源装置を使用する前に、電源装置の背面で適切な電圧が選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、フィリップスドライバーを使って電圧スイッチの上にあるプラスチックの安全カバーを注意深く外し、正しい電圧を選択してください。完了したら、安全カバーを再び取り付けてください。

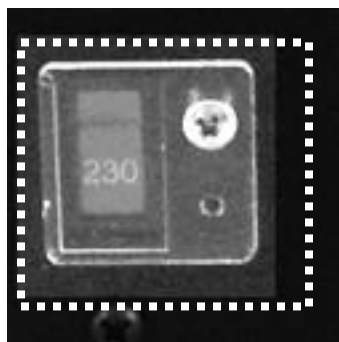
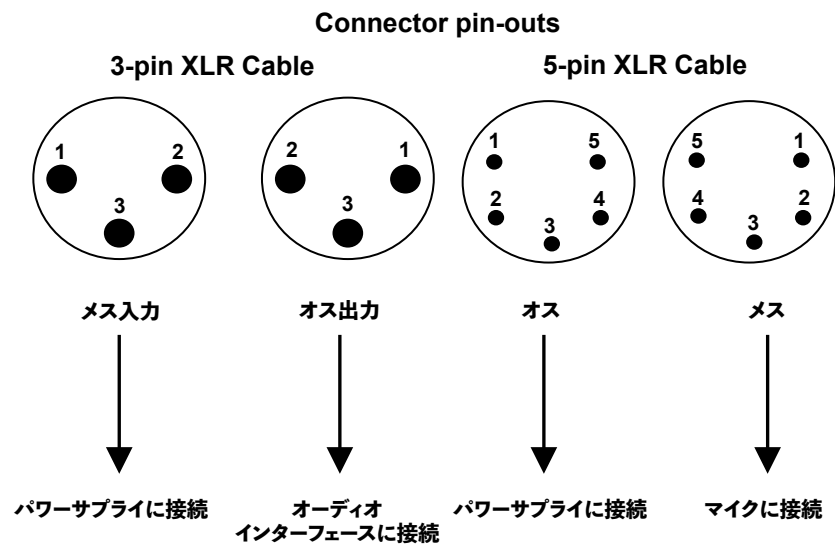


図6: ボルテージスイッチとセーフティカバー

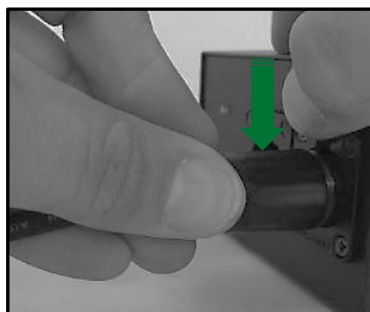
# コネクション

1つはマイクから電源の5ピンXLRメスコネクターへ、もう1つは電源の3ピンXLRオスからレコーディングインターフェース、ミキサー、プリアンプへ接続します。常に高品質の3ピンXLRマイクケーブルを使用してください。5ピンXLRコネクタのカスタムLauten Audioケーブルはマイクに付属しています。

付属の5ピンXLRケーブルのメス側をマイクロホンの底面に接続し、5ピンXLRケーブルのオス側を電源の5ピンXLRメスコネクタに接続します。3ピンXLRケーブルのメス側を電源の3ピンオスXLRコネクタに、オス側をレコーディング・インターフェース、ミキサー、プリアンプに接続してください。



| ヒント:電源からケーブルを取り外す際、  
| 5ピンコネクタを軽く下向きに押すとロックが外れやすくなります。 |



## マウントセッティング

このマイクロホンはサスペンションマウントにすでに取り付けられています。このマウントから取り外すことは意図されていません。マイクを重量のある頑丈なスタンドに取り付けるには、以下の順序を推奨します。

1. サスペンションマウントのハンドルを使って、スタンドマウントアームを締めます (図7)。
2. マイクスタンドのアームを緩め、スタンドアームをサスペンションマウントのアームのネジ山にねじ込みます (図8)。
3. スタンドが傾かないように、スタンドアームを調整し、しっかりと締め付けます。  
その後、必要に応じてサスペンションマウントアームの垂直角度を調整します。

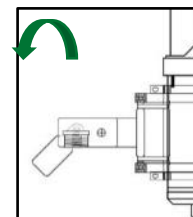


図7

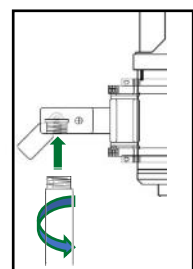


図8

## マウント取り外し方法

マイクをマウントから取り外すには、2.5mmの六角ドライバーが必要です。

マイクロホンをしっかりと保持したまま、サスペンションマウントの内側のクランプアームにある2本の六角ボルトを緩めます (図9)。

マイクを内側のクランプアームから持ち上げて取り外します。前方に引っ張らないでください。(図10)。

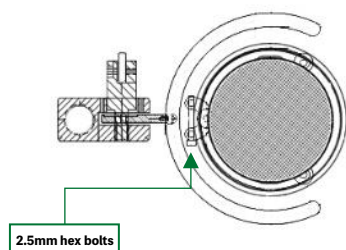


図9

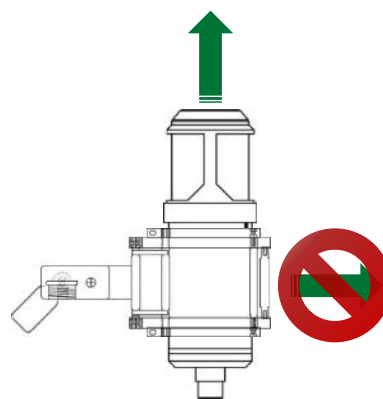


図10



## スペック詳細

<b>Type:</b>	31.25mm dual large diaphragm pressure gradient transducer microphone
<b>Polar Patterns:</b>	Omnidirectional, Cardioid and Figure-8 (selectable)
<b>Circuit:</b>	Vacuum tube input and transformer balanced output
<b>Frequency Range:</b>	20Hz-20KHz
<b>Dynamic Range:</b>	120dB minimum
<b>Impedance:</b>	< 200 ohms
<b>Max. SPL:</b>	0.5%THD@1000Hz: 120dB
<b>Self-noise level:</b>	< 20dB(A)
<b>Sensitivity:</b>	16mV/Pa OR -36±2dB 0dB=1V/Pa 1000Hz
<b>Special Features:</b>	Kick-shaper & Vocal-shaper, (high-pass filters) 3-stage Multi-voicing™ switch Polar pattern switch
<b>Connector:</b>	5-pin XLR (PSU to microphone) and 3-pin XLR (PSU to Preamp)
<b>Power Requirement:</b>	Custom power supply (100v to 240v compatible)

# 周波数特性とポーラー・パターンのプロット

